

団声明で糾弾したように、知事与党会派は、府民の選択を反映した公正な議会役員
の選出を拒否したばかりか、副議長ポストをめぐる醜い駆け引きで、議会を無用に長
引かせるという暴挙を行いました。

日本共産党京都府会議員団は、このような事態を打開するため、次に紹介する申し
入れなどをくり返し行い、議会運営の正常化のために全力をあげました。

議会構成及び委員会正副委員長の選出にあたっての申し入れ

1999年5月26日

日本共産党京都府議会議員団

団長 西山 秀尚

議員団殿

五月臨時府議会が五月二四日に開会され、議会構成について協議がすすめられてい
るところです。

議会の構成は、先のいっせい地方選挙で示された府民の期待にこたえ、議会活動の
活性化をはかり、その役割を十分に果たすことが求められています。そのためにも、
民意を正しく反映した公正・民主的な役員選出と議会運営は不可欠となっています。

この立場から、わが党はかねてより、議長、副議長の選出にあたっては、第一党・
議長、第二党・副議長とすること、常任委員会及び、特別委員会の正副委員長は、各
会派議員数に応じて配分することを主張してまいりました。

また、監査委員については、より透明性をたかめ、府民の信頼にこたえるためにも、
一名は野党から選出することを求めてまいりました。

ところが、この間は、議長、副議長、監査委員からだけでなく、常任・特別委員会
の正副委員長からも、府議会第二党の日本共産党を排除して行なわれてきました。

このことは、議会運営にあたっては、公正・民主的に行なう、そのために民意を反
映した議会構成とするという当然のあり方に反するとともに、議会の府政に対するチ
ェック機能をも低める要素ともなっています。

したがって、今回の役員選出にあたっては、先の選挙で示された民意を正しく反映
し、議長・第一党、副議長・第二党、正副委員長は議員数に基づく配分、監査委員は
与・野党から各一名とするよう、貴会派としても努力されるよう、あらためて申し入
れるものです。

申し入れ

議会構成を決める5月臨時議会も、本日が会期末であるにもかかわらず、まったく空転したまま、経過している。

しかも、わが会派に対しては、空転の原因もまったく明らかにされないまま、密室で協議がすすめられるという異常な事態である。

よって、ただちに、世話人会を開催し、事態の状況を明らかにするとともに、正常な運営となるよう各会派代表による協議を行うことを申し入れる。

1999年5月28日

日本共産党京都府会議員団

団長 **西山秀尚**

世話人会座長

石田 昂 殿

今回の臨時議会で決定した議会運営委員並びに各常任・特別委員を以下に掲載します。

会派名	議会運営委員会		監査委員
	正副議長ほか17人		2人
日本共産党(15名)	△新井 進	高橋 昭三	
	三木 一弘	梅木 紀秀	
自民党(26名)	◎小牧誠一郎	明田 功	酒井 国生 家元 丈夫
	△田坂 幾太	清水鴻一郎	
	△坪内 正一	齋藤 彰	
	梅原 勲	近藤永太郎	
民主・府連(8名)	○田淵五十生	大野 征次	
	△大橋 健		
公明党・府民会議(8名)	△角替 豊	佐藤 宏	
新政会(6名)	△細井 拓一	工藤香代子	

(注)議会運営委員会の◎は議長
○は副議長、△は理事